**知多半島エリアの薬薬連携を考える会について**

　保険薬局と医療機関が連携し、安全な薬物療法を継続して患者さんに提供することは重要です。そこで、知多半島エリアの保険薬局と医療機関の連携を強化することを目的とし、知多半島エリアの5つの医療機関（公立西知多総合病院、国立長寿医療研究センター、知多厚生病院、常滑市民病院、半田市立半田病院（50音順））で「知多半島エリアの薬薬連携を考える会」を立ち上げました。現在では、4つの保険薬局も加わり共に活動をしています。

　本会は、現在特に抗がん剤の薬薬連携に力を入れています。抗がん剤治療については、治療内容により使用される抗がん剤・治療期間・投与量が多岐にわたっており、医療機関からの情報提供が必要になります。薬薬連携を実践することで、保険薬局の薬剤師が治療内容の把握、副作用や相互作用などの確認が行え、地域全体で患者さんをサポートすることができるようになります。しかし、抗がん剤治療の情報提供方法が医療機関毎に異なると、様々な医療機関からの処方箋を扱う保険薬局は情報の整理が難しくなります。そこで、知多半島エリアで共通のツールやシステムを構築するために、5つの医療機関で共通の化学療法計画書を作成し、お薬手帳に貼付しています。

**VISION（目標・夢・志・方向性）**

がん医療に強い知多半島をつくります

**MISSION（使命・目的・役割・存在意義）**

知多半島の薬剤師が連携し、患者中心の安心で安全ながん医療を提供します

**GOAL**

①交流：知多半島の薬剤師および他職種との積極的な交流を行い、頼り合える関係を目指します

②情報共有：すべての薬剤師が適正かつ効率的な処方監査、副作用管理ができる仕組み作りに取り組みます

③知識向上：定期的に研修会を企画・運営し、知多半島の薬剤師の知識向上を目指します

④広報活動：広く我々の活動成果を公開し積極的に発信します

**お薬手帳への情報提供内容（化学療法計画書）の例**

